

◎高山植物に親しもう③(秋)

9月になると山は一足早く、秋のたたずまいを見せ始める。高い山では紅葉が始まり、秋特有の高山植物が咲き誇る。高山植物の紅葉も葉を中心に原色の美しさを楽しませてくれる。1年草で枯れてしまう物から、立派な実をつけて動物や我々を楽しませながら実は賢く子孫を残す営みを続けている。



①サラシナショウマ



②イワインチン



A. 花の百名山

山が好きだった作家の田中澄江さんが全国の花の綺麗な山、百を選びその山の特徴的な花を紹介した随筆集が「花の百名山」「新・花の百名山」である。深田久弥の「日本百名山」と並びこれを手に全国の山を巡る花好きな登山客も多い。又山と溪谷社などからその登山ガイドも発売されている。

B. 高山植物紅葉と実

高山植物も秋になると紅葉する。際立っているのがウラシマツツジである。緑の葉がもの見事に真っ赤になる。ナナカマドの赤も山の紅葉に一役買っている。又チングルマは葉も真っ赤になり花は綿毛に変る。一般的には赤く変色する種類が多いようである。食べられる実もつける。クロマメノキやガンコウランはとても美味しく、喉の渴きを癒してくれる。ノウゴウイチゴもうまい。

C. 秋の高山植物

限られた紙面で説明するのは至難の業である。とてもこの紙面で写真も交えて語れるものがないがあえて独断と偏見で今まで見かけ、記憶に残った花を順不同いくつか紹介。③ウラシマツツジとノウゴウイチゴの実

- ①サラシナショウマ:お花畑の中では尻尾の様な白い花で見分けがつかう。
- ②イワインチン:鮮やかな黄色の花と細い葉が印象的である。岩場や砂礫地帯に成育する。インチンとは漢名でヨモギの事である。
- ③ウラシマツツジ:緑の葉が真っ赤に変身する。ノウゴウイチゴには赤い実がある。
- ④リンドウ:秋はリンドウの花が欠かせない。春のリンドウもあるが秋のリンドウの代表格はオヤマリンドウ(左)とエゾリンドウ(右)である。エゾリンドウは茎が赤みを帯びる事が多い。ヤマリンドウは花は開かない。
- ⑤ミヤマトリカブト:毒草として有名である。特に根に毒が強い。特定地域で分化しており、ざっと8種程ある。葉や花にも触らない方が無難。



④ヤマリンドウ(左)とエゾリンドウ

- ⑥カラマツソウ:カラマツの葉の様な細く白い花びらをぎゅぎゅつける。花や葉の異なる数種がある。
- ⑦シシウド:高さが2m近くに達するものもあり白い大輪の花を咲かせ、お花畑では目立つ。
- ⑧フシグロセンノウ:鮮やかなオレンジ色の花を付け、林の中でも見分けがつかう。探してみたい。
- ⑨ヨツバヒヨドリ:葉が4枚輪生するので名が付いた花は赤みを帯びていて、表面に繊毛がある。
- ⑩ウメバチソウ:湿った場所を好み、花が梅鉢紋に似て、この名がある。数本かたまって生える。
- ⑪ツリフネソウ:比較的低山でも見られる。花は舟をぶら下げたように見える所から由来した。



⑤ミヤマトリカブト



⑥カラマツソウ



⑦シシウド

- ⑫カニコウモリ:葉がカニの甲羅の様な形をしているコウモリソウの仲間の意味で名が付いた。登山道でも良く見られ、特異な名で覚えやすい。
- ⑬ダイモンジソウ:湿り気の多い日陰に生え、花が漢字の「大」の字に似ている。比較的分布範囲が広く、葉の形や色など多様な変異が多い。
- ⑭ホウオウシャジン:花崗岩の岩の割れ目に生え鳳凰山にのみ生えるシャジンである。ワシャジンに比べると、花が濃く、葉は変色した物が多い。



⑧フシグロセンノウ



⑨ヨツバヒヨドリ



⑩ウメバチソウ

- ⑮マツムシソウ:秋の山地を代表する花で群落する機会が多い。紫色の綺麗な花である。由来はマツムシが鳴く頃に咲く花だからとの事、等。
- ⑯オミナエシ:秋の七草のひとつ。万葉の昔から日本人に愛されてきた。黄色い細かい花。
- ⑰シモバシラ:花季には白く密集したブラシの様な花を咲かすが、初冬には潤れた幹の根元に霜柱がつき、この名が付いた。花も覚えて欲しい。



⑪ツリフネソウ



⑫カニコウモリ



⑬ダイモンジソウ

- ⑱クガイソウ:輪生する紫色の花が幾段にも付くので漢字で、九階草、又は九蓋草と書く。



⑭ホウオウシャジン



⑮マツムシソウ



⑯ミヤマアキノキリンソウ



⑰シモバシラ



⑱オミナエシ



⑱クガイソウ

◎ごく一部の掲載だが、登山道脇の高山植物にも目を向け、花を楽しんで欲しい。